

教育活動の意義、目的を自由に語り合い、 自校の生徒にふさわしいゴールを描く

探究学習及びアクティブ・ラーニング(以下、AL)の開発に取り組みながら、教育活動全般の改善に取り組み龍谷大学付属平安中学校・高校。今回は10月、11月に行われた探究学習・ALのコンセプトづくりの様子をレポートする。

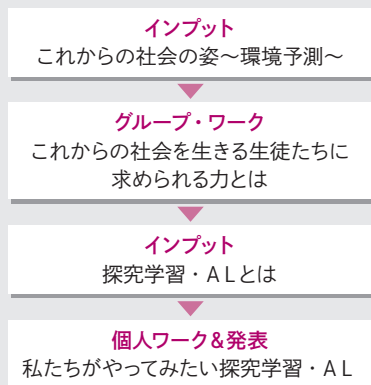
10月●探究学習・ALの意義・目的の明確化

開発の意義と必要性を共有する

2017年度からの探究学習・AL導入を見据えて、カリキュラム・マネジメント委員会を中心に検討を開始した龍谷大学付属平安中学校・高校。その第一歩は、これからの社会で、どのような力が求められているのかを確認しながら、探究学習・ALの意義・目的を話し合うこと。サポータースタッフとして参加したベネッセ社員による「これからの社会の姿」についての解説を踏まえて、「社会で求められる力」を教師が語り合った。

そして、本誌16年度10月号の特集に掲載した関西大学の黒上晴夫教授のインタビュー記事を基に、探究学

意義・目的の明確化のフロー



習・ALのアウトラインを確認した後、自校における探究学習・ALのイメージを出し合った。探究学習・ALを考える際に、何に重きを置くか、同僚との対話の中で共通点と相違点を確認していった。

会議に参加した教師からは、「新しいものを生み出す主体的な学びの姿勢を育むことなくして、これからの社会に対応できる生徒を育てることはできないと確信した。目標が見えてきた満足感と同時に、喫緊の課題であるのだという危機感も感じている」「教科と部活動、さらに学校行事を生徒の主体的な学びの場として連携させたい。学校総体で考える視点が重要だ」といった声が上がった。



教科や分掌、教職歴の異なる教師が集まり、これからの社会で求められる力と、それを育むために求められる指導について、リラックスした雰囲気の中で話し合った。

11月●探究学習・ALのコンセプトの作成

ゴールイメージが徐々に明らかになる

10月の会議の内容をさらに掘り下げ、自校の探究学習・ALの軸、コンセプトをつくるため、「育みたい力」

「そのための指導」を校内で広くヒアリングし、その結果を共有することから11月の会議はスタートした。校

探究学習・AL開発のフロー

同校では、以下の流れで探究学習・ALの開発が進められている。校内の検討が活発化するように、どのような配慮がなされているかを、サポートスタッフとして参加するベネッセ高校営業部・若榮寿美が解説する。

10月

学習の意義・目的の明確化

社会のこれからとそこで求められる力、そして探究学習・ALについて自由に語っていただくため、4、5人の小グループを基本に活動を進めていただきました。また、最初から探究学習・ALについて考えるのではなく、先生方にとって身近な、そして何より大切な「育てたい生徒像」から話し合っていたことで、意見が出やすかったように思います。

11月

学習のコンセプトの作成

「探究学習・ALで育みたい力」「その実現のための教育活動」を、小グループで話し合っていました。その際、メモや付せんに思いついた言葉をとにかく書き留めていただきました。文字にすることで、グループ全体で各自の考えや思いを可視化できるようになり、何気ない言葉をほかの人がさらに深めたり、別の視点で展開させたりしやすくなりました。

12月

学習のコンセプトの具体化 (どの教科、行事でどのような探究学習・ALを行うのか)

1月

カリキュラム案の作成・検討

2月

カリキュラム決定と その実施のための to do の整理

今回、取り組んだ内容

今後の予定



検討会に参加する教師は、自教科のほかの教師の意見を事前にヒアリングし、会に出席した。できるだけ校内から広く意見を取り入れるための工夫だ。

内から集まった意見を付せんやメモに書き、その共通点をグループで考

えていく中で、学習のコンセプトに
つながっていくキーワードがいくつ
も浮かび上がってきた(下図参照)。
それらのキーワードをさらに精選す
る中で、「授業、行事を連携させて、
生徒自身に『学びの文脈』を描かせ、
教師が手を離しても学び続ける力を
育む」といった、ゴールイメージが
練り上げられていった。
カリキュラム・マネジメントの観
点から、学校のすべての教育活動を
有機的につなぐことを参加者全員で
了承した後、「既存の学校行事から、

探究学習・ALの場として機能させ
るものを選定すること」を次回まで
の課題として校内で検討することが
決まった。また、各教科の授業にお
いても、学校行事と連携しながら探
究学習・ALを実施していくことが
共有された。そのため、今後の検討
会議では必要に応じて参加人数を増
やすのと同時に、検討の進め方につ
いても、当初の想定を踏まえつつ、
さらに柔軟に創意工夫を加えながら
吟味することになった。

コンセプトの検討過程で挙げたキーワードなど

主体的な学び 自学自習 じっくり考える

考えを伝える

論理的思考力

研究授業の充実

不易と流行の整理

文章で答えさせる発問

教師不在の学び

正解が1つではない問い

教えすぎない授業

学びの目的の明確化

教師の独自性の尊重

各教師のウリの再確認

生徒がつくる質問

社会との接続